



Established in 1992

JCPF会報

Japanese Cleft Palate Foundation
特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会

発行 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会事務局
〒464-8651 名古屋市千種区未盛通2-11

愛知学院大学歯学部
TEL : 052(757)4312 FAX : 052(757)4465

振込口座：郵便局 00850-1-109941
三菱東京UFJ銀行覚王山支店 普通 1045666

<http://jcpf.agu.jp> E-mail:jcpf@jcpf.or.jp

人牙 脣西
Vol. 23, No. 3
(平成26年12月20日発行)

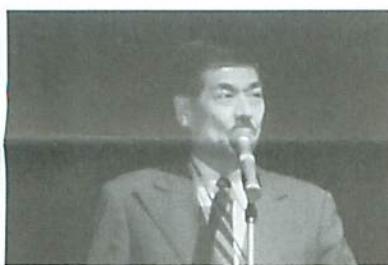
定価 400円

75

第2回 沖縄県公開講演会開催

平成26年9月28日(日) 10:00から沖縄県男女共同参画センターに於いて第2回沖縄県公開講演会が開催されました。最初に沖縄県口唇口蓋裂協会を考える会の設立式典をおこない、新崎章琉球大学医学部附属病院口唇口蓋裂センター長や考える会の会長である西原一秀先生の挨拶、砂川元琉球大学名誉教授、高嶺明彦沖縄・ラオス国口唇口蓋裂患者支援センター会長、夏目長門日本口唇口蓋裂協会常務理事らの挨拶などがあり、先生がたの長年の意向であった患者やその家族との結びつきを深めるための会が立ち上げられました。

講演会では、この病気の治療を通じて思うことや育児や治療の上で知っておいていただきたいなどを夏目長門常務理事が講演され、琉球大学における実際の治療について西原一秀先生がお話をされました。その後、遺伝カウンセリングについてのDVDや、口唇口蓋裂を理解するための映画が上映される一方で、7名の方が琉球大学の先生がたの無料医療相談を受けられました。講演会に先立ち、26日に沖縄タイムス社を訪問し、当協会の紹介と講演会への取材をお願いし、翌日の新聞にも講演会の周知ができましたので、60名近い方々にご参加いただきました。



新崎章教授



砂川元名誉教授



高嶺明彦先生



講演会の様子



無料医療相談会



Q & A コーナー

質問：口唇口蓋裂の治療の分野での再生医療の現状について教えて下さい

**お答え：東京大学医学部附属病院 頸口腔外科・歯科矯正歯科
西條 英人 先生**

口唇口蓋裂は、裂の形態により異なりますが、粘膜をはじめ、歯槽骨が欠損し鼻の軟骨には低形成を認めます。こうした口唇口蓋裂の治療に対して、様々な手術方法が開発されたものの、組織欠損を補う方法としては、現在のところ自家組織を移植することがスタンダードの方法です。そのため、このような手術においては健常な組織を採取する必要があります、その結果健常な部分へ新たな創を作ってしまいます。こうした治療に代わるものとして、再生医療が着目されています。現在の中でも、特に進んでいるのが軟骨に対する再生医療です。今回、口唇口蓋裂の鼻変形に対する、鼻形成術に関して、述べさせて頂きます。

口唇口蓋裂に伴う鼻の変形では、鼻中隔軟骨の発育が悪く弯曲しているために、鼻全体がゆがんでいる場合がしばしばあります。鼻の高さが低く、鼻の孔に左右差が目立つ場合や鼻の尖端が丸い場合もあります。こうした変形を解決するには、顔の成長が終了した16～17歳以降に、軟骨や骨を移植して鼻の形を整える手術を行います。鼻に対する手術は様々な手術が終了した後、最後に行う非常に重要な手術になります。これまでの鼻の手術では、患者さん自身の耳の軟骨や、鼻中隔の軟骨、肋軟骨などを採って、鼻の形成に必要な形や厚さにして用いていました。しかし、耳の軟骨や鼻中隔の軟骨は量が少なく力学的に弱く、肋軟骨では移植後に曲がってしまうなどといった欠点がありました。本来は柔らかい軟骨を用いて鼻の形成を行うことが適切ですが、こうした理由から、私たちは腰の骨を用いて鼻の形成を行っています。腰の骨を約6cmほど採取し、鼻背に移植しています。いわゆる骨隆鼻という方法ですが、鼻すじのところに骨を移植することにより、鼻が高くなるとともに、鼻尖がきれいな形になり、鼻孔も左右対称にすることが出来る大変良い方法です。20年以上にわたってこの方法を用いており大変良好な結果を得ていますが、この方法にも欠点があります。鼻は元々柔らかくなくてはならないのですが、骨によって作られた鼻の形は良いものの、硬いために鼻をかみ難く、また運動中に外力で移植した骨が折れることもあります。腰に5cmほどの傷が残るとともに、骨を採取した部分が少しへこむ場合もあります。こうした問題を解決するため、自己再生軟骨による鼻形成術が着目されています。これは、患者さんの耳から、0.1g位の極少量の軟骨を用いて、培養し再生させた軟骨を移植する方法です。再生医療は、細胞を培養して組織や臓器を人工的に製造し、病気やケガの治療に使用する新しい医療です。これまで、再生軟骨に関しては、膝の関節欠損や美容外科などで、軟骨細胞を含んだ液を注入する方法が行われてきました。しかし、口唇口蓋裂に伴う鼻変形の手術に使用できるような形や硬さをもつ再生軟骨組織はありませんでした。今回、私たちの施設では、患者さんご自身の耳の、ごくわずかの軟骨から採取した軟骨細胞を大量培養し、生体内で吸収される人工素材を併用することにより、形態的にも強度的にも満足する再生軟骨を、世界に先駆けて開発に成功し、すでに臨床研究において良好な結果を得ています。



Q & A コーナー

質問：口唇口蓋裂の矯正治療はどんなところがむずかしいのですか？

お答え：長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 歯科矯正学分野
森田 幸子 先生

口唇口蓋裂の治療は、さまざまな分野の専門医が密な連携をとりながらチームアプローチで治療を行っていきます。なかでも矯正歯科は出生直後のHotz床装着から青年期・成人期の永久歯列の矯正治療まで、患者さんと長期にわたり関わる分野で、口唇口蓋裂治療のチームアプローチにおいて重要な役割の一端を担っています。

口唇口蓋裂における矯正治療の特徴として、以下のようなことが挙げられます。

(1) 治療が複雑で長期となる

口唇口蓋裂の矯正治療はその時期によって、①新生児期および乳児期の術前顎矯正治療、②乳歯列期～混合歯列期における顎成長のコントロールや永久歯の萌出誘導を目的とする矯正治療、③永久歯列期における顎関係の改善や咬合の完成を目的とする矯正治療に分けられます。治療開始時期や治療内容は裂型や不正咬合の程度によって異なりますが、乳児期から永久歯列期まで長期的な治療と経過観察が必要となります。そのため使用する装置の数が多く、治療も複雑になります。また後戻りを生じやすいので矯正治療終了後の保定も長期間行う必要があります。さらに、装置装着期間が長くなることから、日々の歯磨きの徹底と定期的な歯科医院での衛生管理でむし歯にしないことも重要です。

(2) 多様な咬合不正を呈する

口唇口蓋裂の患者さんでは、先天的な歯の欠如や過剰歯、歯の位置や萌出時期の異常などの歯の異常の発生頻度が高くなります。また口唇口蓋裂の手術痕は上顎の成長を抑制すると言われており、その度合いは手術の術式や裂型の部位・程度によって異なります。このようなことから多様な不正咬合を呈することが多く、それぞれの症例において必要なタイミングで必要に応じた矯正治療が行われることになります。

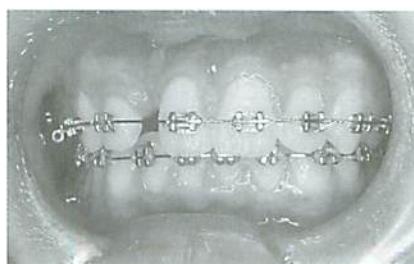
(3) チームアプローチを必要とする

矯正治療中、口唇口蓋裂の二次手術・顎裂部骨移植などの外科手術や言語治療を並行して行うことがあります。また上下顎の成長の差が著しい場合は思春期以降に外科矯正手術を行うこともあります。歯の欠損がある場合は矯正治療終了後に補綴治療を行うことも少なくありません。このように口唇口蓋裂の矯正治療は、外科医、小児歯科医、言語聴覚士、補綴科医などとの緊密な連携を必要とします。

矯正治療は、調和のとれた顔貌の形態と長く安定した機能的なかみ合わせをつくることを目的としています。治療期間は長くなりますが、それらのためには必要な期間です。口唇口蓋裂の矯正治療はより専門的な知識や経験が必要となり、治療も長期にわたりますので、相談しやすい専門の機関・診療所にかかることがあります。矯正治療開始時期や治療法などはそれぞれのお子さんで異なりますので、主治医の先生にご相談下さい。

参考文献

- 高橋庄二郎：口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床、日本歯科評論社、東京、1996
一色泰成：唇顎口蓋裂の歯科矯正治療学、医歯薬出版株式会社、東京、2003。



最近の国内活動

■入れ歯供養祭

2014年10月8日(水)「入れ歯の日」に、愛知県保険医協会歯科部会主催による入れ歯供養祭が名古屋市千種区の日泰寺で行われ、参加させて頂きました。私どもの国際医療援助活動を紹介する恒例のパネル展示も行われ、夏目長門常務理事が代表して挨拶を致しました。さらに本年はモンゴル国立医療科学大学の学長がご参列なされ、同大学発行の英文感謝状を持参され、愛知県保険医協会に贈呈されました。これは、使用済み金銀歯などが当協会を通じてモンゴル国医療支援活動の資金となっているためで、学長は感謝状を手渡しされるとともに感謝の意を述べられました。



バトバタール学長

■モンゴル国立医療科学大学学長来名・モンゴル国診療隊参加者交流会

2014年10月6日(月)から10日(金)まで、モンゴル国立医療科学大学のゲンチン・バトバタール学長が愛知県を訪問されました。同大学はモンゴル国唯一の国立医療系大学で、当協会がモンゴル国派遣事業を開始した当初の1990年代より深い友好関係にあります。口唇口蓋裂の予防に関する共同研究も行っております。来日中は、名古屋市立大学医学部、名古屋大学医学部、愛知学院大学、モンゴル国名誉総領事館(医療法人生会)などを訪問され、各代表者と会談なされて、特に今後の医療協力について意見を交わされました。また8日(水)には当協会が毎年実施するモンゴル国への医療支援の隊員との交流会に御参加されました。交流会は終始和やかな雰囲気で、参加者は楽しいひとときを過ごしました。



■モンゴル国フレルバータル大使によるグローバル人材のための講演会

駐日モンゴル国特命全権大使ソドブジャムツ・フレルバータル閣下を講師に、グローバル人材のための国際情勢講座「モンゴルから見た北東アジア情勢」が、2014年12月4日(木)名古屋大学で行われました。当協会の夏目長門常務理事は、講演前に閣下に謁見賜り、平素の御礼を述べるとともに、大学の先生と今後の医療協力の話を致しました。また当協会スタッフが講演を拝聴致しました。講演後、会場の参加者より、モンゴルとの医療協力の現状についての質問及び意見が出されました。閣下は、当協会が17年間にわたりモンゴル国と医療協力を行っていることに言及され、日本に特別な信頼感を持っておられると応答されました。

■在名古屋バングラデシュ人民共和国名誉領事館開設披露式典 開催

一昨年より尽力しております名古屋へのバングラデシュ人民共和国名誉総領事館の開設において、昨年9月に当協会の相談役の三菱航空機株式会社取締役会長 江川豪雄氏が名誉総領事に任命され、12月2日(火)に授与式ならびに名誉総領事就任披露式典が開催されました。

本会には、バングラデシュ人民共和国のマスード・ビン・モメン駐日大使をはじめ、各国の大半や大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長、各国の在名古屋名誉総領事・名誉領事など、この地域のみならず日本を代表する多くの著名な方々がご出席されました。

本件は、当協会のバングラデシュへの医療協力が評価され、2年前にモメン大使よりの夏目長門常務理事が依頼を受けておりますが、バングラデシュへの医療協力は現地の情勢が悪化し、毎年見送られている状況がありました。しかし、長年バングラデシュへの診療隊の中心となり活動を行っている北海道大学の井上農夫男名誉教授が、昨秋10月に当協会の医療協力再開における視察のためバングラデシュを訪問されました。今後、当協会とバングラデシュとの友好交流・医療協力の更なる発展が期待されます。



■エチオピア連邦民主共和国マルコス タクレ リケ駐日全権大使ご夫妻沖縄県訪問

エチオピア連邦民主共和国名誉領事館事務局として沖縄県及び琉球大学と調整し、平成26年9月26日～28日まで大使ご夫妻が沖縄県を初めて訪問されました。

26日には沖縄県庁で高良倉吉副知事と面談し、沖縄県とエチオピア最大のオロミア州との交流についてお話しをされました。その後、琉球大学を訪問し、松下正之医学部長、須加原一博副学長らと面談し、医療分野での協力と交流を深めるためにエチオピアの大学との交流や交換留学の実現などのお話しをされました。

27日には沖縄美ら海水族館や万座ビーチなどを訪問され、内陸国であるエチオピアではできない体験をされ、28日に帰京されました。



沖縄県庁にて高良倉吉副知事と

■エチオピア連邦民主共和国人民代表議会下院議長一行来名

このたび、外務省を通じて衆議院国際課より当協会が事務局を行っている在名古屋エチオピア連邦民主共和国名誉領事館へ依頼があり、衆議院の招致により日本へ公式訪問されていたエチオピア連邦民主共和国人民代表議会アバデュラ・ゲメダ下院議長一行(駐日大使館ならびに衆議院関係者含め計18名)が来名し、平成26年10月27日(月)名古屋マリオットアソシアホテル内会議室にて、愛知県を代表する方々との交流会議を開催いたしました。

松本定道名誉領事による歓迎挨拶で開会したこの会議には、愛知県や名古屋商工会議所、三菱航空機株式会社が参加されました。当協会からは夏目長門常務理事が出席をし、長年にわたる国内外での活動やエチオピアへの医療協力と友好交流について紹介とご報告をし、アバデュラ下院議長よりこれまでの活動に対する感謝のお言葉を頂戴し、エチオピアへの医療援助の持続と友好交流の発展を希望されました。



インターネットによるクラウドファンディング 支援募集掲載中!

「口唇口蓋裂に苦しむエチオピアの子どもたちを救いたい!」

2015年2月からエチオピア僻地へ派遣される

診療隊へのご支援を募っております。

皆様にどうぞご周知よろしくお願い申し上げます。

下記URLへアクセスしご覧ください

https://readyfor.jp/projects/jcpf_ethiopia2014



海外医療援助

■国際口唇口蓋裂協会ワークショップCLEFT2014

国際口唇口蓋裂協会(International Cleft Lip and Palate Foundation : ICPF)は世界中の口唇口蓋裂治療の専門家が参加している国際団体で、1997年に京都で設立されました。この団体は、先進国の口唇口蓋裂治療の最先端で活躍する医師らが、発展途上国の医師らに治療の知識ならびに技術を移転して、どこの国の口唇口蓋裂の子どもでも「良い」治療を受けることができるようになりますように活動をしています。日本口唇口蓋裂協会も毎年にわたりICPFの活動支援を行ってきました。ICPFは毎年学術集会を開催していて、昨年はベトナムハノイでCLEFT2013が行われましたが、今年は、モンゴル国ウランバートル市で、2014年9月9~12日にCLEFT2014が開催されました。本ワークショップでは参加者一人にモンゴル国立医療科学大学の学生一人が補助役としてアテンダントを行うなど、ホスピタリティが際立つ大会となりました。モンゴル人のおもてなしの心や、日本で口唇口蓋裂の治療を学び、最新の治療法をモンゴル人医師らに伝承しようと日々鋭意努力をされている大会長のProf. Ariuntuulの情熱が伝わってきました。また、近い将来は医療者となるモンゴル国立医療科学大学学生にとっても、第一線で活躍する専門家から間近で多くの学ぶ良い機会になったと思います。大会はICPF会長のDr. K.E.Salyer等の著名な医師による口唇口蓋裂治療に関する基調講演が行われました。そして、世界各国より集まった口唇口蓋裂の治療に携わる専門家が、最善の治療を目指して、新知見、最新治療について発表していました。

この地球上には、国や地域によっては適切な治療が受けられずにいる口唇口蓋裂の子ども達が存在します。彼らは適切な治療を受けければ機能障害が残ることはなく健やかに成長していきます。そのためには、その国の医師らが自国の子ども達の手術を行い、成長に合わせてきめ細やかな治療を行っていくことが重要であり、国際的な支援活動のゴールです。

次回CLEFT2015はロシアのモスクワ市で2015年9月2・3・4日の日程で開催される予定です。ロシアはとても大きな国で地域によっては十分な医療が行われていません。CLEFT2015がロシア各地の医師らや、他の発展途上の国から参加した専門家に最新の技術や知識を移転するよい場所になることを祈っています。CLEFT2015のホームページ(英語)のURLです。興味のある方は是非ともご覧下さい。

<http://www.icpf2015moscow.org/>



K.E.Salyer会長



Ariuntuul G.大会長

■日本モンゴル医学歯学交流フォーラム

上記のICPFワークショップ2014に期間的に先行して、「日本モンゴル医学歯学交流フォーラム」が、2014年9月7日(日)・8日(月)にウランバートル市・モンゴル日本センターで開催されました。当フォーラムは日本モンゴル文化交流40周年記念事業でもあり、モンゴル国ツアヒアギーン・エルベグドルジ大統領及び在モンゴル日本国大使館が後援致しました。当協会は、当ワークショップを共催したモンゴル国立医療科学大学及び日本医学歯学情報機構に協力するかたちで参加致しました。当日は、両国の政府機関や病院の代表が多数参加したほか、日本から8大学(東北大、獨協医科大学、東邦大、昭和大、愛媛大、徳島大、長崎大、愛知学院大)の医学部・歯学部代表が参加しました。両国の大学・病院の紹介ならびに医療協力に長年携わるかたがたの講演が行われ、第二日日の午後よりは、日本モンゴルネットワークの形成のためのラウンドテーブルディスカッションが行われました。当ディスカッションはシンポジウムの形式で行われ、今後の医療協力をめぐり、両国の政府機関・大学・病院の代表が議論を致しました。今後の両国の医療協力にとって重要な鍵となる大学間交流、遠隔医療、日本からの医薬品輸入について、これらの促進に役立つ意見が交わされました。その成果のひとつとして、「モンゴル日本ネットワーク」プログラムが行われることになりました。また両国による医療会議の次回開催希望の旨も出され、この点は現在、検討中となっております。



岩井淳武 JICAモンゴル次長
講演:「モンゴルでの保健医療セクターのJICA協力」



ラウンドテーブルディスカッション

■モンゴル国医療支援に関するお知らせ

1. モンゴル国立医療科学大学より日本での研修希望があります

上記事の日本モンゴル医学歯学交流フォーラムのラウンドテーブルディスカッションでは、両国の今後の医療協力について熱心な議論が行われました。その成果として、「モンゴル日本ネットワーク」プログラムを行うことになりました。モンゴル国立医療科学大学では、今後、日本のODA(政府開発援助)により日本教育病院が建設されます。同大学よりは、日本から病院建物や医療機材のみならず日本の医療技術を移転したい希望があります。上記プログラムは、同大学の教員が日本の医療機関で1ヶ月(最大90日)間、日本で研修を行うものです。その後も、診断や治療においてのサポート等、両国専門者間での草の根交流に発展することを願っております。旅費等はモンゴル側、日本での滞在費(宿泊食費等)については受入医療機関側が提供することとなっております。医療交流に前向きな医療機関等ございましたら、下記へご連絡頂けましたら幸いです。

2. モンゴル国医療支援2015年度参加者募集!!

期 間：2015年8月中旬

費 用：28万円

※派遣期間中の航空運賃・宿泊費・食事代・モンゴル国内移動費を含む。

日本国内の空港までの交通費、旅行保険代金などは含まれておりません。

対 象：医師、歯科医師などの医療者、大学院生、大学生・高校生およびその保護者、一般も可。

以上のお知らせ1及び2に関する連絡先：

E-mail : info7@jcpfor.jp

(担当：吉田)

国際協力について今思うこと

長崎大学歯学部2年 三砂 千夏

先日の夏目先生の講義を受け、自分なりに考えたことを述べたいと思います。

国際交流は地域社会で様々な活動が行われ、グローバル化の加速と共に国際交流は、過去から現在そして未来に続く共通な課題を含んでいます。国際交流を通じて世界を知った人は、より広い視点から、日本のなかで真に優れたものを認識し、見出す能力を身につけることが出来ます。国際交流は国際交流として、時代の課題を背負っており、その時代の中での役割を担ってきています。今後とも、その時代に応じ状況に応じて、様々な役割を果たし、時代の流れがどのように変わろうとも、異文化の人と人がお互いを理解しあい、広く世界を知り、偏見を克服し、人間の進歩、そして向上を目指して時代の最先端に挑戦を続けることが国際交流の原点にかなう行動ではないでしょうか。

私が考える国際協力とは、様々な国の政府、企業、団体、個人が共通の目的である繁栄を伴った平和のために、国境を越えて利害関係を調節しながら協力しあうプロセスです。

その目的を実現する主役はもちろん「人」です。夏目先生の講義のなかでもあったように、千羽鶴がCTよりも人の心を動かす場合があるのです。軍事力、経済力、そして先生がおっしゃった、第三の力、というものが確かにあります。

開発途上国への開発援助や国際協力は、個人に対する技術研修と組織を含めた総合的問題解決能力の開発が重要です。開発途上国の人たちが本当に必要なものを選別できるように、様々な方法で研修を行い、開発援助や国際協力の成果が持続する工夫が行われています。これから国際協力・国際交流は、人類相互理解による国際紛争の防止や、人類の共通課題の共同的な解決のために行う必要があります。グローバル化が進み、問題・課題がますます複雑化している中、国際協調による国際紛争の解決、国際共同研究による科学技術の発展、国際共同制作による新たな人類の文化の創造、国際共同による地球環境問題の解決など、これまでの民族や、国家、文化圏や経済圏という既存の枠組みなぞ超えて、協力して解決すべき課題が増えていると感じます。グローバル化は政治・産業を国境という柵を飛び越えて、国々や人々の相互依存が深まり、ほとんどの問題が国際的な枠組みの中でしか解決できなくなってきたことを認識しなければなりません。

このように考えることで、高校の時の現代社会の授業において漠然と聞いていた、「地球市民」という考え方方がストン、と理解できました。人間の尊厳性と世界の文化の多様性の理解や、地球社会の各地に見られる貧困や格差の現状を知り、その原因を理解すること、開発問題と環境破壊などの地球的諸問題との密接な関連への理解、開発をめぐる問題と私たち自身との深い関わりに気づくこと、そして開発をめぐる問題を克服するための努力や試みを知り、参加できる能力と態度を養うことからはじまるものがあるのです。

現代の国際文化交流は多種多様であるといわざるをえません。以前の担い手としては政府や政府機関を中心であったのに対し、いまでは企業、教育機関、民間非営利団体から市民一人ひとりまで、さまざまな機関や個人が行うようになってきています。

いつの時代でも、どんな地域でも、どのような方法を使っても、文化交流の基本は人間です。文化活動の担い手はいつも人であり、理解しあう主体や協働する主体も人間です。やはり、人と人との交流が基本になります。交流は人にはじまり、人に終わると思います。

しかし、果たして国際交流や国際協力は日本の社会にどの程度定着しているのでしょうか。国際交流や国際協力が社会にどの程度、定着しうるかは、市民意識の広がりに直結していると考えました。さらに、日本の精神面での成熟化には、国際交流・協力活動を地域社会にさらに広げることがカギになるに違いありません。

以上のように夏目先生の講義をきっかけとして考えたことを述べてきましたが、そこで気づいたことがあります。それは、知識が全てではない、ということです。浅薄な知識から深遠な行動はなかなか生まれにくいのは事実です。しかし、物事に共感する心が育っていないければ、物事を自分のものとして考えていくことは出来ません。分析や、思考する練習ができていなければ、物事を鵜呑みにしてしまいます。人と話し合い、理解し、交渉すること。そして、何かを生み出す努力がなければ、協調性も発展性も生まれません。最後にある選択肢は、やるか、やらないかということだと思います。

新規法人会員のご紹介
ご入会頂きありがとうございました

◆法人正会員

三菱航空機株式会社
株式会社JTB中部

愛知学院大学 先天異常遺伝学・言語学講座 講演会のご案内

日 時：2015年2月21日(土) 13:30～16:00
会 場：愛知学院大学楠元キャンパス歯学部基礎棟
名古屋市千種区楠元町1-100(東山線本山駅・1番出口より徒歩5分)
講 師：菊池好和先生(九州大学病院耳鼻咽喉科 医師)
テー マ：吃音相談者の心をつかむポイント
講 師：吉田 教明先生(長崎大学 歯学部歯科矯正学 教授)
テー マ：ライフステージに応じた口唇口蓋裂患者の矯正治療
参 加 費：無料

【お申し込み方法】 2015年2月7日(土)までにEメールにてお申込み下さい。

E-mail : kifukouza-agu@outlook.jp

BOOKS

◆ちかちゃんのえがお

(関西地区口唇口蓋裂児と共に歩む会
[大空会]発行 無料)

◆「口友会」からあなたへ

口唇・口蓋裂友の会編
(口唇・口蓋裂友の会発行 定価350円)

◆口唇口蓋裂児 哺乳の基礎知識

日本口唇口蓋裂協会編
(財団法人 口腔保健協会発行 定価305円税別)

◆口唇口蓋裂児 離乳食の基礎知識

日本口唇口蓋裂協会編
(財団法人 口腔保健協会発行 定価400円税別)

◆幼児期の口唇・口蓋裂の子供たち
への理解のために

日本口唇口蓋裂協会編
(財団法人 口腔保健協会発行 定価400円税別)

BOOK & VIDEO をご希望の方は協会までご連絡下さい。(送料別)

◆学童期の口唇・口蓋裂の子供たち
への理解のために

日本口唇口蓋裂協会編
(財団法人 口腔保健協会発行 定価400円税別)

◆口唇口蓋裂の理解のために

—すこやかな成長を願って— 第2版
河合 幹監修
(医薬出版社発行 定価1,600円税別)

◆口唇口蓋裂の疫学的研究

河合 幹、夏目長門編集
(東山書房発行 定価2,500円税別)

◆まだ見ぬわが子のために

—親としてできるだけのことをしたい
という気持ちから—
河合 幹、夏目長門、吉田和加編
(定価1,500円税別)

◆チーちゃんのくち

渡辺真美作
(日本口唇口蓋裂協会監修 定価1600円税別)

◆啓太君のお母さんの口唇口蓋裂手帳

稻葉なつる著 日本口唇口蓋裂協会編
(財団法人 口腔保健協会発行 定価420円税込)

◆心の扉

口唇・口蓋裂友の会編
(口唇・口蓋裂友の会発行 定価680円)

◆口唇・口蓋裂児者の幸せのために

口唇・口蓋裂友の会編
(ぶどう社発行 定価1,850円)

◆海外歯科ボランティアの道

香月 武著
(日本歯科新聞社 定価1,800円税別)

VIDEOS

◆口唇口蓋裂児 ことばの手帳

—初回手術を終えて—
(15分 1,500円)

◆口唇・口蓋裂児の育児手帳

(文部省選定)
(映像倉 10分 9,800円)

◆和子旅立ち

(文部省選定・日本歯科医師会推薦)
(映像倉 60分 38,000円)

◆ベトナムの子供たちに医療援助を

—笑顔を戻したい—
(30分 1,000円)

◆生まれ来るわが子とともに

—口唇口蓋裂と出生前診断—
DVD・ビデオ
(※会員向け貸し出しのみ)

[会報担当: 吉田]